

## 無料講座「教室の教え方3つのポイント」第2回

イチジャン・ドットコム の須藤です。

無料講座「教室の教え方3つのポイント」2回目をお届けします。  
今回は、第2のポイント「理由を説明してあげる」です。

マー جان教室教え方のコツを、お教えします。

---

イチジャン・ドットコム こうやって教えればよかったのか！  
「教室の教え方3つのポイント」  
第2のポイント：「理由を説明してあげる」

---

マー جانに限らず、人に何かを伝えるには、伝える本人が、  
しっかりと言葉にできていなくてはなりません。

自分が言葉にできないことを、人にわかりやすく伝えることはでき  
ないからです。

例えば、初めて「役」について講義をするときに、どのように始め  
ますか？

この先を読む前に、自分だったらどうするか、ちょっと考えてみて  
ください。

どのようにお話ししますか？

考えました？

どうでしょう。

「マージャンには役というものがあって、これがないとアガれないので、役を覚えましょう」

みたいになりましたか？

それとも、もうちょっと突っ込んで、

「マージャンには役というのがあって、役は組み合わせの難易度によってもらえます。今のマージャンでは、この役が何か1つないとアガることができません」

みたいになりましたか？

上の2つ、確かに間違っていないのですが、これでは初めて聞いた生徒さんは分かりにくいのではないかと思います。

これらの説明が分かりにくいには、2つの理由があるのです。今日は、この2つの理由についてお話しします。

まず1つ目の理由。それは

=====

用語が分かりやすく説明されていない

=====

初めてマージャンを習う生徒さんにとって「役」という言葉は初めて出てくる言葉です。

いきなり「役というものがあります」と言われても、それが何なのか分かりません。

まずは、この「役」とは何かを説明してあげる必要があるのです。

先に挙げた例の2番目の方は、一応「役」の説明が入っていますね。「役は組み合わせの難易度によってもらえます」と。

しかし、これだけで意味わかりますか？  
何か難しそうに聞こえてしまいますよね。

もっと分かりやすく説明できないでしょうか。

ここで、私が使っている、用語やルールを説明するときの、とっておきの方法をお教えしましょう。

それは、「具体例を混ぜながら物語にしてあげる」という方法です。

ただ単に、「こういったルールがあります」とか「この用語はこういう意味です」のように言うより、ずっと受け入れられやすくなりますよ。

例えば、「役」の説明を物語でしてみましょうか。

まず、役というのは、そもそも何なのかというお話しをします。

昔、中国でマージャンが始まった頃は、  
「3枚1組4つとアタマが1つできればそれで勝ち。アガリですよ」とやっていました。

ところがあるとき、全部ピンズ、丸の種類ばかりでそろってアガった人が出たのです。

全部同じ種類だなんてきれいですよね？

そこで「あ、きれいですね。きれいだから点数をいっぱいあげましょう」というのが、「役」の始まりだったのです。

きれいな組み合わせができたら、点数をいっぱいあげましょう。

そのきれいな組み合わせのことを「役」というのです。

という感じです。

どうでしょう。少しは分かりやすくないですか？

分かりやすい説明をするには、先生が用語を自分なりに言葉にすることが大切になります。

そのためには、一つ一つの言葉に、深い理解が必要になるのです。

では、続いて2つ目の理由です。次の理由はこちら。

=====

なぜ、そのような決まりがあるのか理由が説明されていない

=====

単に「役が何か1つないとアガれません」と言っても、  
「え？ 何で？」と、  
すぐには受け入れられないものです。

受け入れられないことは覚えられません。  
「何で？」というところで、思考が止まってしまい、覚えるという  
アクションに移れなくなってしまうからです。

「どうしても。そういう決まりだから」だけでは、なかなか納得し  
にくいですよ。

どのようなことでもそうですが、「～だから」という理由があると、  
非常に受け入れやすくなります。

何かを理解してもらおうと思ったら、理由を説明してあげて、  
「だから、これを覚えなくてはいけないのね」と、受け入れてもら  
わなくてはならないのです。

つまりここでは「どうして役が何か1つないとアガれないのか」と  
いう理由を説明してあげる必要があるのです。

ここでの説明でも、先ほどと同じように、物語にしてあげると効果  
的です。

では「どうして役が何か1つないとアガれないのか」を物語で説明してみます。

昔は「きれいな組み合わせができたら点数をいっぱいあげましょう」というだけでよかったのです。

しかし、これがエスカレートしてきました、  
「私、こんなにきれいな手を作っているのに、そんな何もない手でアガったりして。それじゃあ、つまらないじゃない」という意見が出てきたのです。

そこで、何もないのでアガるのはつまらないから、単にそろうだけでなく、さらに最低1つ、このきれいな組み合わせ「役」がないとアガってはいけませんよ、という決まりを作ったのです。

という感じです。

そして、

役がないとアガってはいけませんよということは、今のマージャンは、役を知らないとアガれないのです。

というわけで、この先、どのような役があるのかを覚えていく必要があるのです。

と、続けていけば良いのです。

いかがでしたか？

用語・理由を説明してあげる。

さらに効果を上げるには、物語にしてあげると良い。

これが、第2のポイント「理由を説明してあげる」でした。

今後、説明をするときに利用してみてくださいね。

麻雀教室レッスンマニュアル「3ヶ月で教える初級麻雀教室」

<http://www.1jann.com/teach/manual.html>

---

イチジャン・ドットコム こうやって教えればよかったのか！

「教室の教え方3つのポイント」

第2のポイント：「理由を説明してあげる」

有限会社イチジャン・ドットコム

須藤 浩

<http://www.1jann.com/>

---